

『あなたがたのあった試練は みな 人の知らないものではありません。

神は 真実な方ですから、あなたがたを耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに 脱出の道も 備えてくださいます。(コリントⅠ 10:13)』

梅雨が明けたかのような 蒸し暑い毎日が 続いています。子ども達は 水遊びを楽しみながら 元気いっぱい過ごしています。朝からの酷暑に げんなりしそうになりますが、皆の 愛らしい笑顔と 明るい声に 心満たされ、日々の平安に 感謝です。

先日の 九州地方での 突然 もたらされた記録的な豪雨による被害のニュースには 言葉もなく ただ 切に祈るばかりですが、今 どんなに悲しいお気持ちで過ごされているのかと 胸が痛みます。心よりお見舞申し上げます。

さて、先月10日の同窓会では 皆様のご理解とご協力を 頂きまして、多くの卒園生が 集まり、懐かしい顔ぶれと心躍る再会の時を楽しく過ごすことができましたこと ありがとうございます。今年は 初めて目にしたアスレティックに大喜びしながら しばらく満喫した後、皆で DVD 鑑賞、そして、毎年お楽しみの会食（今回は 先生達による 本格派！ラーメン屋さんと パフェ屋さん）をしながら クラス別の座談会・・・と 盛り沢山の 賑やかなプログラムでした。

立派に成長した姿を見せに 貴重な時間を割き 足を運んでくれる子ども達には、心から感謝です。とても頼もしく でも 相変わらず 可愛いひとりひとは皆、私達の誇りであり 宝物だと 改めて 喜びに満たされました。久しぶりに会った時に見せた 澄ました表情は すっかり消え それぞれが 当時のあどけない笑顔に戻り、明るく帰って行く後ろ姿を見送りながら 私もホッと安心しました。

けれども ここ最近、卒園後の保護者の方々からの相談が増えてきたことも含め、子ども達の 心の成長について 色々と考えさせられ 祈ることの多い毎日でもあります。

学校生活の中で 子ども達は、生きるための 色々なチャレンジを受けていることを 思わされます。何より、ここで育まれた価値観や 人間関係、特に「愛すること」「善悪の判断」「正義」について 保育園との あまりの違いに 戸惑い、或いは 憤りながら 日々 様々な 葛藤の中に在ること・・・そして その想いは 高学年になるにつれ 自らの心に蓋をして 信じることより “あきらめ”へと 変えていってしまっているそうです。そんな子ども達の想いを受け、祈りを込めて 開会礼拝では 保護者会総会の際にも紹介した『足跡』のお話をもとに 私なりのメッセージにして 伝えました。持ち寄った 卒園記念の聖書を 開き、上記の聖句を 皆で 読み合いました。

「人生は ひとりひとりが 主役、その道のりの長短も 高低も 険しさも 背負う重荷も それぞれ 異なり、それぞれが 神様によって与えられているもの。その道は それぞれにふさわしく 互いに 比べることはできない。そして どんな時も 神様は ひとりひとりを見てくださり 守り 愛し、苦しい時ほど イエスさまが共にいて支えてくださっているから 心配はいらないんだよ。聖書にある“脱出の道”とは 自分一人で頑張らない。神様に助けてもらおう！と頼ることだよ。」その ひと言ひと言に まっすぐのまなざしを向け、力強く頷く子ども達の上に 神様の 励ましと導きが いつもありますよう 祈りました。その後、Disney 映画の『ノートルダムの鐘』を鑑賞しました。これは、1831年に フランスの 政治家でもあった作家 ヴィクトル・ユゴーによって書かれた これまでにも 何度か映画化されている 小説です。最近、劇団四季による舞台でも 人気ですが 美しく純粋で 優しく豊かな心の持ち主なのに、醜い容姿というだけで 人々から疎まれ 怖がられ 化け物扱いをされて鐘つき部屋で 孤独に暮らす主人公と、秀才で努力家、自分こそ完璧で正しいと信じている教会の司祭と、戸籍も家もなく世の中から蔑まれながらも 人の心を見抜き 温かな 愛を持つ シブシー女性、この3人それぞれの生き様と出会いを通して 人の心の奥深いところへ 問いかけ、人の良心とは 真実の愛とは・・・を 温かく描いた物語です。

「この世に 正義を誇る人は 一人も存在しないこと、人の価値は 目に見えるものではないこと、愛するとは 相手の幸せを喜ぶこと。」この物語を通して それぞれに何かを感じ、沁み入るものが あったと思います。そして 久しぶりの保育園で「優しくあれ！ひとりじゃない！」と神様の愛を 確信できた子ども達の心には きっとまた人を愛する希望が与えられたと信じています。(石田 記)